

六小・富士便り

開校55周年 国立市立国立第六小学校
校長室便りNo.13 令和7年(2025年)12月5日

音楽会 第1日目 児童鑑賞日が終わりました。

今日は、音楽会の第1日目、子供たちが各学年の演奏をお互いに聴く日でした。それぞれが、これまでに頑張って取り組んできた成果を十分に発揮して、自分たちの音楽を奏でていました。私たち教員も、Mrs. GREEN APPLE の楽曲「青と夏」の器楽演奏をして、子供たちの頑張りに応えました。各学年とも、それぞれの成果として、楽器の音色や合唱の声が体育館に響きました。

先週まで、インフルエンザの流行に影響を受けてきましたが、精一杯の取組と頑張りをもって、運動会と同様に学校行事の大切な節目の1日日を終えることができました。

いよいよ明日は、第2日目、保護者鑑賞日です。

今日とは違う緊張感と高揚感があると思います。きっと、また、新たな演奏となって、ご来校いただいた皆様を包み込むこと思います。子供たちの演奏と頑張りに盛大な拍手をお願いいたします。

〈校歌制定20周年記念の音楽会〉



(上記の絵は生成AIで作成しています)

また、今日は、校歌制定20周年を記念して、同じ音楽の世界で活躍している、皆様もご存知のNHK おかあさんといっしょ「第11代 歌のお兄さん」からのメッセージ動画を流しました。お名前は、ご紹介できませんが、以前お知らせしたとおりに、私との個人的な関係の下に、今回、メッセージをいただくことになりましたので、お名前は控えさせていただいております。

実は、本人が中学生の頃、私が指揮者として合唱指導していた合唱団に入団し、3年間、一緒に演奏やイベントに頑張りました。そういう意味では、大変におこがましいですが、教え子の一人でもあります。当時のことをよく覚えてくれていて、合唱団で取り組んだ様々なことを、これまで大切にしてくれていたそうです。七小の時に20数年ぶりの再会を果たし、それ以来、様々に協力してもらっています。

あくまで、今日のメッセージについては、ボランティア的な動画での出演となりますので、何卒、ご了解いただけますよう、お願いいいたします。

明日も、保護者向けのメッセージ動画を流しますので、お楽しみに。

(再度のお願いです。メッセージ動画の撮影は、【厳禁】でお願いいたします)

音楽朝会での録音

音楽会の前の12月3日(水)の全校朝会は、音楽会の歌の練習と校歌の録音を行いました。

校歌制定20周年の記念として、今回録音した校歌の音源は、作詞・作曲をされた杉本 竜一先生にお送りしたいと思います。また、2日目の保護者鑑賞日には、保護者の皆さんに録音した全校児童の校歌を聞いていただきたいと思います。

以前に頂いた杉本先生のメッセージには、以下の言葉があります。(一部参照)

『～「ポケットに夢を持ちなさい」、この言葉、どこかで聞いたことがありますよね？

そう、私が校歌の歌詞の中に入れた言葉です。

～夢というのは、不思議なもので、具体的に描けば描くほど、そして、思いを強くするほど実現する可能性が高くなります。ポケットに入れた夢に向かって努力してみてください。～』

杉本先生が校歌の歌詞に込めた思いは、私の考えていたことと同じようなところがあります。自分のもつ夢を実現したいと思うのであれば、思い続けること、祈り続けることが大事なように思います。そして、心に思い描き続けることで、実は自分の夢に近付いていく。そういう経験を私は、たくさんしてきました。

六小の校歌は、きっと子供たちや私たちの夢や希望をもつことに、勇気を与えてくれる曲のように思います。今回の20周年を契機に、更に六小校歌を大切にして、歌い継いでいく六小であり続けたいと思います。杉本 竜一先生、ありがとうございました。そして、校歌を歌った全校児童の皆さんに感謝しています。これからも、歌い継いでいきましょう。

5年生の学習活動から

音楽会の練習をしながら、学習活動にも頑張っている子供たちです。5年生の国語の学習で、学校の中で解決したい課題について考え、ポスターを作成して掲示し、学校のみんなに考えて行動してもらったり、ルールを守ってもらったりすることを目指した学習活動を行っています。

先日は、5年生のいくつかのグループが校長室にやってきて、それぞれが考えた課題とその解決のために作成したポスターを見せに来てくれました。掲示してもよいかの許可をもらうためにミニプレゼンテーションをしました。みんな、しっかりとした言葉で話を伝える姿がありました。

これからの学校の教育活動においては、子供たち自身が学校を良くしていくことを考えたり、もっと生活しやすいように行動したりすること等、学校生活を自分事として捉える力と実践力が大切になると思います。六小は、コミュニティ・スクールでもありますので、子供たちの声も反映できるようにしていくことも大切な取組と考えています。下学年から憧れられる高学年として、様々なところで活躍する姿や行動を見せてほしいと思う活動でした。高学年として、頑張れ！

【校長のつぶやき】

12月になると、クラシックのコンサートでよく演奏されるのがベートーヴェン作曲の「交響曲第九番 合唱付き」です。

「歓喜の歌」とか、「喜びの歌」等と合唱のところだけで歌われることも多く、原曲のドイツ語で歌われたり、日本語に訳して歌われたりします。私も何度か合唱団の一員として歌ったことがあり、忘れられない曲もあります。先日も、九州で5万人の第九が演奏され、私の先輩や合唱で関わった仲間が指導したり、歌ったりしているのを見たばかりです。

特に、第四楽章の冒頭のオーケストラの演奏から、途中でバリトンソロが始まり、歌いあげるところでは、いつも鳥肌が立つほど感動します。それも、どの指揮者の演奏でも、どこのオーケストラの演奏の時でも、バリトンソロが入る同じところで感動が起こります。

本来、指揮者が変わると、演奏のスピードが違ったり音の強弱の場所が違ったりします。また、オーケストラの違いにより、優しい音を奏でたり、強く響く音を奏でたり、本当に様々に音の違いがあり、感動するところも違うことが多いところです。しかし、ベートーヴェンの第九に関しては、これも指揮者やオーケストラの違いで、様々に違うところがありますが、感動を覚えるところは、いつもバリトンソロが入る同じ場所で感動します。ベートーヴェンの第九の凄さは、指揮者やオーケストラを超える曲の力にあると、私は思います。